

「金山文化信息资源共享网」の過去ページ（現在閉鎖）を翻訳・補完したものです。  
日本語文責；コトータケヒコ。

## 金山農民画

金山農民画は江南の民間芸術という土壌に根ざし、発掘と育成を経て新時代の生活と現在アートの趣きをもった、新しい絵画形式への適応に成功した。70年代中期、金山の刺繍に秀でた一部の農村婦女が県文化館の指導によって、握ったこともない絵筆を握り、心の赴くままに身の周りの現実生活を描き始めた。尽きることのない探索と実践を経て、70年代末江南水郷の風土や民情を主要題材とし、素朴な構成で幻想に満ち溢れ、見た目の形にはとらわれず、色彩が明快かつ強烈で、平面的で誇張された構図をもち、透視原理にしばられず様々な民間芸術の痕跡を残し、拙さの中に巧さを残し、豊富な装飾美で彩られた芸術風格を形成し、我が国の現代民間絵画の中に独自の旗印を掲げた。1980年中国美術館での展示以来、国内外の専門家の高い評価を得て、名声は日増しに高まり、50年代の江蘇邳県、70年代初期の陝西戸県に続いて出現した三度目の農民画ムーブメント（《中国現代美術全集》）として全国農民画再隆起のきっかけともなった。1988年には国家文化部から金山県は初の“中国現代民間絵画画郷”に称せられた。

1984年金山農民画社成立。1989年に独立し、1992年金山農民画院に名称変更、作家の育成に力を注ぎ、途切れることなく金山農民画の芸術レベルを高めながら、農民画図案の織物の壁掛け、シルク製品、カレンダー、年賀状などのシリーズ製品と黒陶芸術品などを開発し続けてきた。国内外の芸術交流にも積極的に参加し、金山農民画は国内外で賞賛された。1999年金山農民画院は上海市優秀外事接待単位及び上海市農村十大標示性改革成果に認定、金山農民画と黒陶芸術品はともに“沪郊百宝”と上海市優秀旅游産品に認定された。

### 第一章 風格形成

金山地区は江南水郷、民間芸術が豊富かつ多彩で、金山農民画の産生に肥沃な土壌を提供してきた。しかし金山農民画の風格形成には、一步一步歩んできたひとつの発展の過程があった。

1958年、当時の「大躍進政策」の影響で金山地区に農民たちの美しい生活への憧れを描いた幻想的な色彩の宣伝画が大量に出現した。1965年社会主義教育運動の一環として、村史（村の歴史）や家史（一家の歴史）を語る活動が展開され、「楓围公社勝利大隊」の農民・陳富林と龔明華は村史、家史をセットにした46枚1セットの連作を描いた。農民たちの血と涙に彩られた旧社会の搾取と圧迫の歴史、新社会の幸福な生活を反映した同作は群衆から大喝采を受け、県文化部門の関心を引いた。1972年県文化館がこの村に美術学習班を設立して指導を開始。その後も多くの地区で美術学習班が設立され、農民美術愛好者たちの絵画テクニックは引き上げられていった。この時期の絵は、あるものは年画に、あるものは漫画に似ており、現在の金山農民画のスタイルとは全く異なるものであった。

1974年、下放された著名画家たちが楓泾で農村生活を体験、美術組を成立した。程十發、韓和平、汪観清たちは農民たちに作画、スケッチ、デッサンなどの手ほどきを与え、参加した農民たちは絵画テクニックをひとつひとつ身につけていった。またこの年、陝西省戸県農民画が上海で展示され、上海市文化部門は上海市の美術関係者たちに戸県での成功経験を学習するよう要求、これも農民たちの美術活動を活発化させることになった。県文化館美術組は相前後して民間工匠、芸術家、生産隊知識青年、現地農村青年らを何回かに分けて農民画の創作学習班を催した。民間工匠は旧絵画の古いしきたりに縛られ、型通りにやることに慣れており、芸術の創造と時代の空気を読むことに欠けていたが、生産隊知識青年の作品は戸県の影響を明確に受け、造型、色彩などすべてが写実的立体的で、題材もほとんどが当時の政治スローガンであった“全民皆兵”“農業学大寨”“農業機械化”“深挖洞，広積糧”などで、これらが金山農民画の初期風格を形成した。その中の朱希と陳明民が共同創作した《金谷満倉》は1975年10月全国児童、少年画、年画展覧で入選、北京の中国美術館で展示され、同館に收藏された。

1975年から1976年の作品は、金山の現地農村青年たちが主役となった。スタイルは依然として写実的だったが、色彩はすでに見たものを誇張表現する特色が現れ始めていた。例えば陳木雲が《喧闹的早晨》で描いた一群の鸭子は色とりどりで美しく描かれ、実際に目にする鴨の色とはかけ離れており、完全

に作者の主観を反映していた。この時期のその他の作品では、阮章雲《花鮮猪更肥》、沈德賢《采珍珠》、胡偉《參觀養豚場》、庄四良《大隊拖拉機站》、徐小星《立新茶樓》、林来源、薛徳良《围海造地》などが中国美術館に收藏されている。

1976年2月、上海美術館が“上海農民画展”を開催、金山の45作品も展示された。同年、文化部は“中国農民画展”の挙行を企画してカナダ、フィンランドに赴き、金山の6作品も展示された。1977年1月上海美術創作事務室と金山県文教局が“金山県農民画展覧”を上海美術館にて共同開催し、162作品が出品された。この展示は金山農民画が初めて単独で社会に出たものとなった。

より理想的な金山農民画の作者を探すため、1977年に県文化館美術組は文化館幹部の指示で上海と浙江省の境にある枫泾農村で「採風」と呼ばれる採用活動を行い、何人かの刺繍に秀でた農村婦女を発掘した。特に曹金英の刺繍作品は突出しており、翌年すぐに農民画創作に参加するよう勧めた。彼女は持ちなれた鋤頭を小さな絵筆に持ち替えましたが、重さはまるで千斤のようでどうしてよいか分からなかった。しかし温かい指導と励ましのもと、彼女は綿花のように花開き、針を筆に代え、農村特有のベッドのひさしにかけられた蚊帳から構図をとり、繰り返しの啓発と指導によって、曹金英はついに自分の心のままに一枚の〈調龍灯〉の絵を描き出した。紅色の背景に色鮮やかな巨龍がくねっており、龍の下にはたくさんの人が様々な状態で生き生きと描かれており、色彩は明るく、作者の生活への愛と豊作への喜びが満ち溢れていた。この絵の成功は、幹部指導者たちにもひとつの啓発となった。即ち、農村婦女にとって切り紙、刺繍、布織りなどの労働の中で蓄積された民間芸術の素養それこそが彼女たちの絵画制作の基礎になりうるのだということ。まさしく、彼女たちのもつこの基礎が“デッサン”や“透視”といった障害を乗り越え、思い思いに彼女たちに熟知した生活を表現させたのだった。

金山は刺繍、織物、桐紙、陶器、かまどの壁画、藍染、泥人形、木彫、レンガ彫刻など、民間芸術が豊富かつ多彩である。指導者たちは至る所を探し回ってそういった芸術素養のある農民（主に農村婦女）を農民画創作学習班へと

招いた。学習班ではまず農民作者の自卑的な心理を克服し自信をつけさせることから始め、作画の際には創作意欲が最大になるよう感情を投入できるように指導した。統一的な美術の基礎教育に頼ることなく、彼らが熟知している刺繍、切り紙、布織りなどの技能を絵画入門の道とさせ、彼らが熟知しているものを描かせ、人によって異なる啓発的な補習を与え、十分に作者の芸術性と想像力を発揮させた。こうして作者の芸術イメージが固まってきたら、その得意とする部分をさらに引き出し、補完し、作品を完璧なものへと昇華させていったのだ。こうした指導の過程は、実は農民作者の潜在的な芸術の創造力の開発過程ともいえるだろう。一期一期の農民画創作学習班を通して、また指導幹部と作者の共同の努力によって、金山農民画はついに民間芸術の基礎から抜きん出て、独特の芸術風格を形成するに至った。そして農村婦女を主体とする農民画家たちの大量出現によって、彼らは一步ずつ畦道から金山へ、そして世界芸術の殿堂へと歩き出し、世界を驚かす業績を得ることになる。

農民作者は教育的な制限のため、ひとりで自由に創作できる状態になりにくい。そのためには指導員の支えと指導が必要になる。美術評論家の左漢中は《中国農民画論》の中で“指導員の指導と参与は農民画創作の独特な現象である。農民画の話に及んで、農民画指導員に話題が及ばないわけにはいかない。”（《中国当代美術全集・農民画》，湖南美術出版社）と指摘している。金山農民画の代表的かつ傑出した指導員は呉彤章で、長期に渡って金山農民画の風格形成に重大な貢献をし、彼の芸術観と啓発的な指導方法もまた広く美術界に知られることとなった。1981年、全国農村文化芸術先進工作者と上海市労働模範に評され、1988年には国家文化部から“中国民間美術工作開拓者”の称号をと國務院特別手当を授与された。